

芦北町人口ビジョン

令和 2 年 3 月
芦 北 町

目 次

I	人口の現状分析	1
1	人口動向分析	1
(1)	総人口の推移	1
(2)	年齢3区分別人口の推移	2
(3)	出生・死亡、転入・転出数の推移	3
(4)	合計特殊出生率の推移	4
2	人口移動分析	5
(1)	年齢階級別人口移動	5
(2)	人口移動の状況	6
(3)	県内市町村への人口移動の状況	7
(4)	周辺市町村への人口移動の状況	8
(5)	通勤・通学の状況	9
3	雇用や就労等に関する分析	10
(1)	男女別産業人口の状況	10
4	日常の買い物動向	11
(1)	芦北町と周辺市町村の地元購買率	11
II	将来の人口展望	13
1	目指すべき将来の方向	13
(1)	現状と課題の整理	13
(2)	目指すべき将来の方向	14
2	将来の人口展望	15

I 人口の現状分析

1 人口動向分析

(1) 総人口の推移

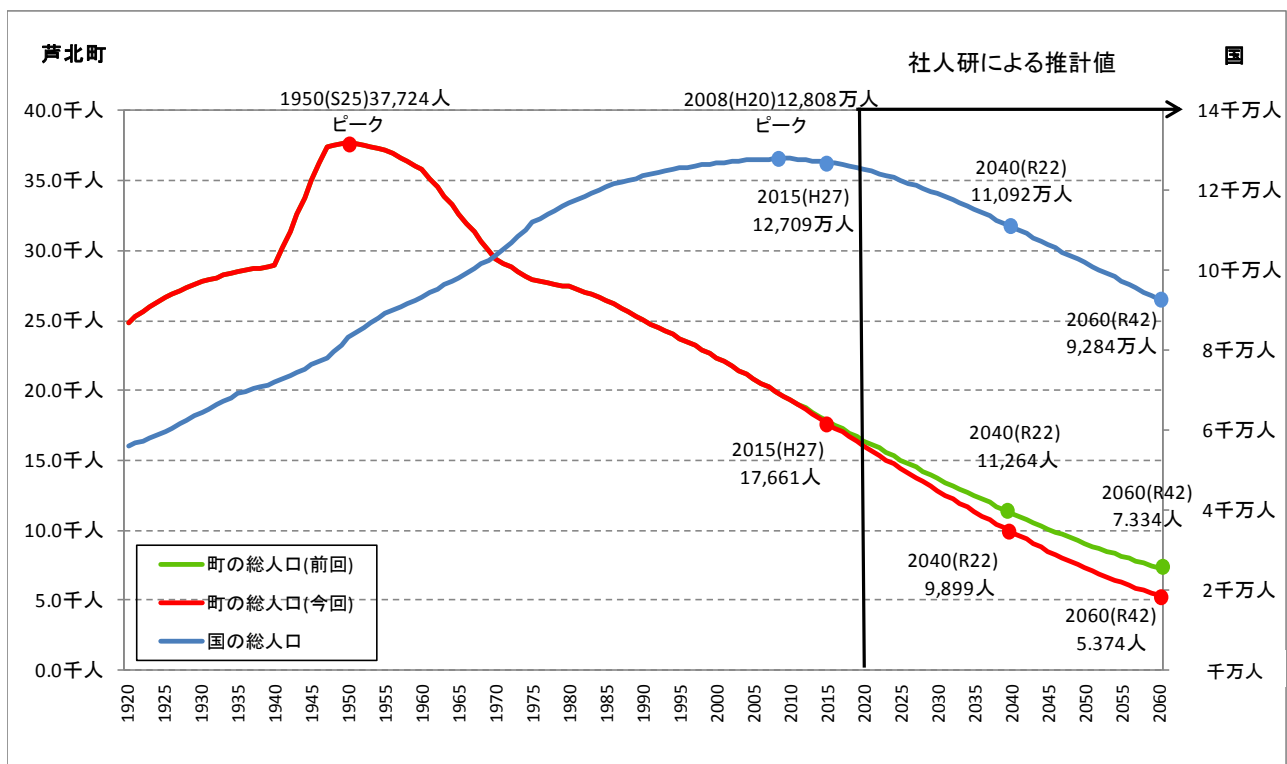
○芦北町では、戦後人口が急増し、1950（S25）年に人口のピーク 37,724 人を迎えて以降、減少を続けており国勢調査での 2015（H27）年現在の人口は 17,661 人となっています。

○国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計では、2020（R2）年以降の芦北町の人口は、急速に減少を続け、2040（R22）年には 9,899 人に、2060（R42）年には 5,374 人になるものと推計されています。

なお、前回の人口ビジョン策定時には、2040（R22）年に 11,264 人に、2060（R42）年には 7,334 人になると推計されていました。

○国の総人口は、2008（H20）年の 12,808 万人をピークに減少し、2040（R22）年には 11,092 万人、2060（R42）年には 9,284 万人になるものと推計されています。

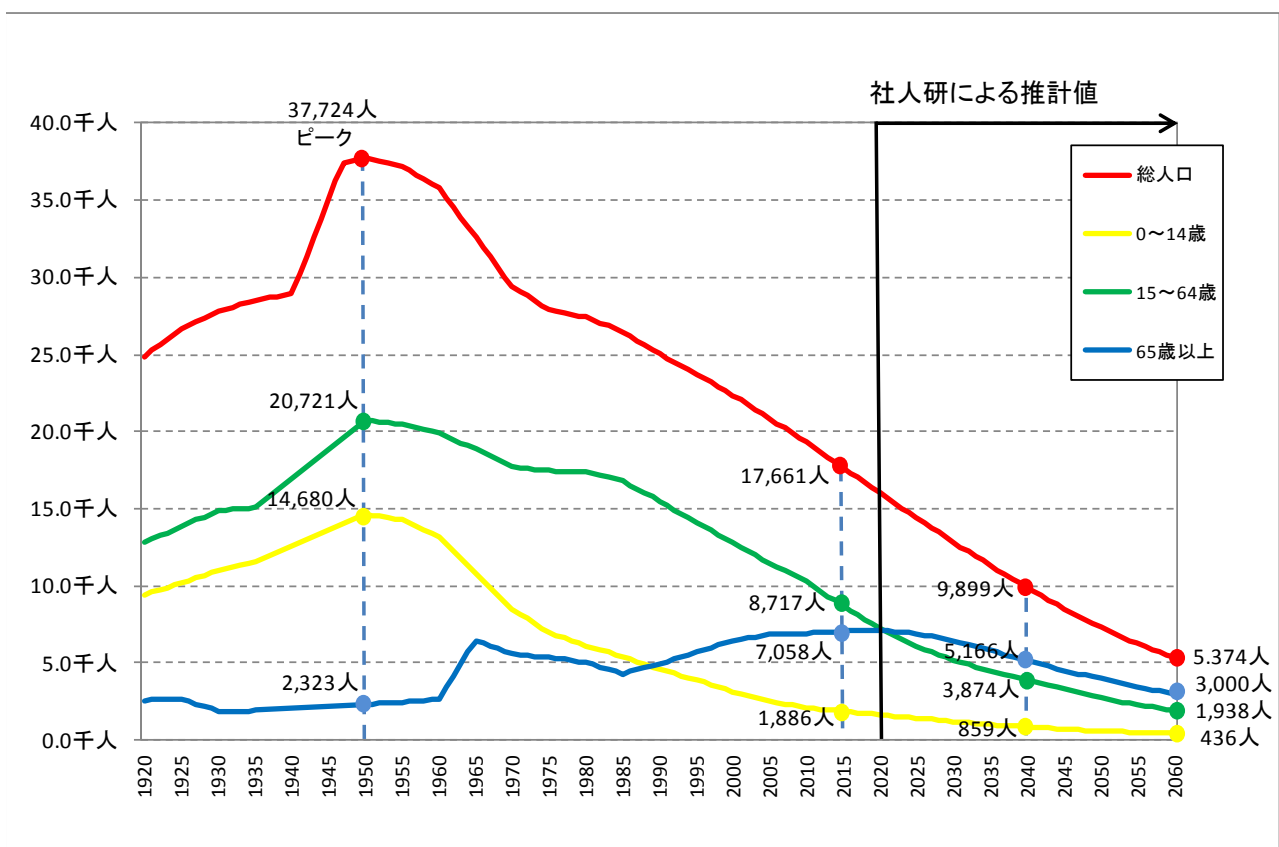
【図表 1 総人口の推移と将来推計】



(2) 年齢3区分別人口の推移

- 総人口の減少傾向と同様に、生産年齢人口（15 歳～64 歳）と年少人口（0 歳～14 歳）のいずれも減少が続いています。
- 老年人口（65 歳以上）は、生産年齢人口が順次老年期に入り増え続けています。1970 年代の高度経済成長期には一時減少しましたが、平均寿命が延びたこともあり再び増加し、1990（H2）年には年少人口を上回り、以降も増加を続けています。

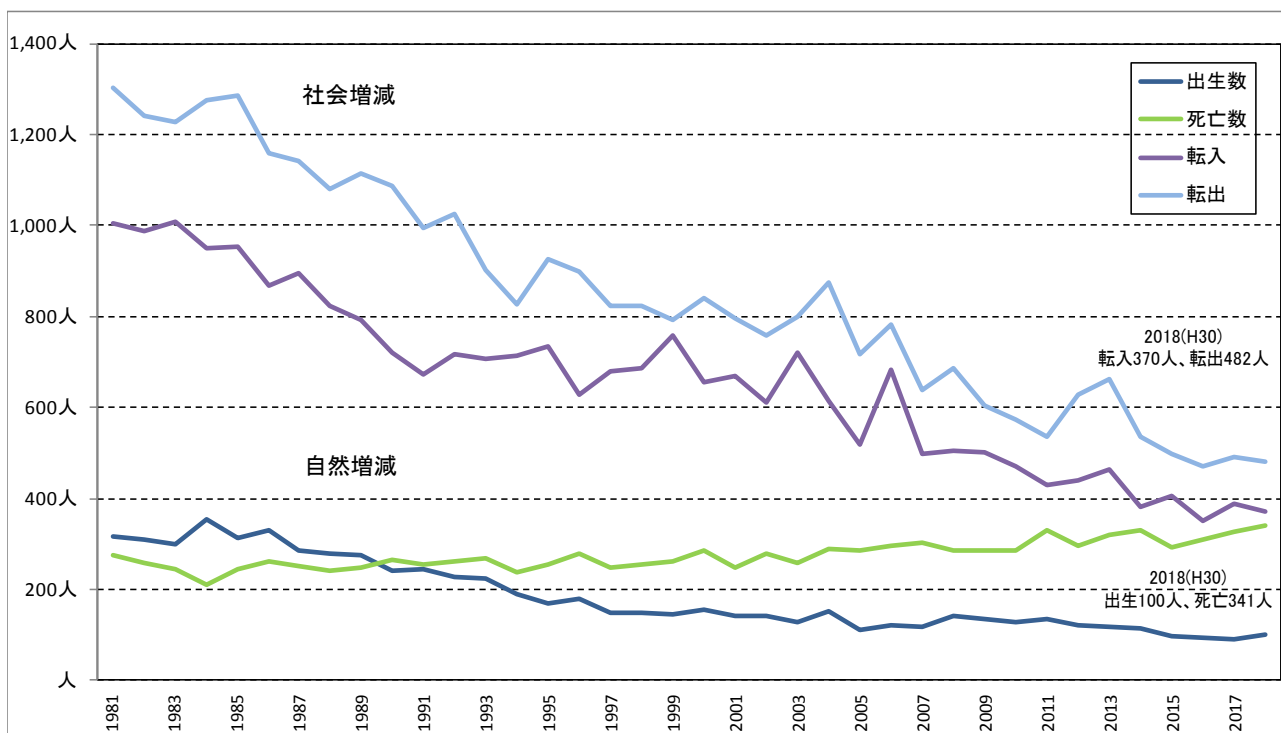
【図表 2 年齢3区分別人口の推移】



(3) 出生・死亡、転入・転出数の推移

- 自然増減（出生数－死亡数）については、1990（H2）年まで出生数が死亡数を上回る「自然増」でしたが、それ以降「自然減」の時代に入り、減少傾向は拡大を続けています。
- 出生数については、出生率の低下と母親世代人口の減少の影響で、緩やかな減少傾向が続いています。
- 社会増減（転入数－転出数）については、一貫して転出超過（「社会減」）が続いています。
- 転入数・転出数ともに年による変動はあるものの減少を続けています。

【図表 3 出生・死亡、転入・転出の推移】



（４）合計特殊出生率の推移

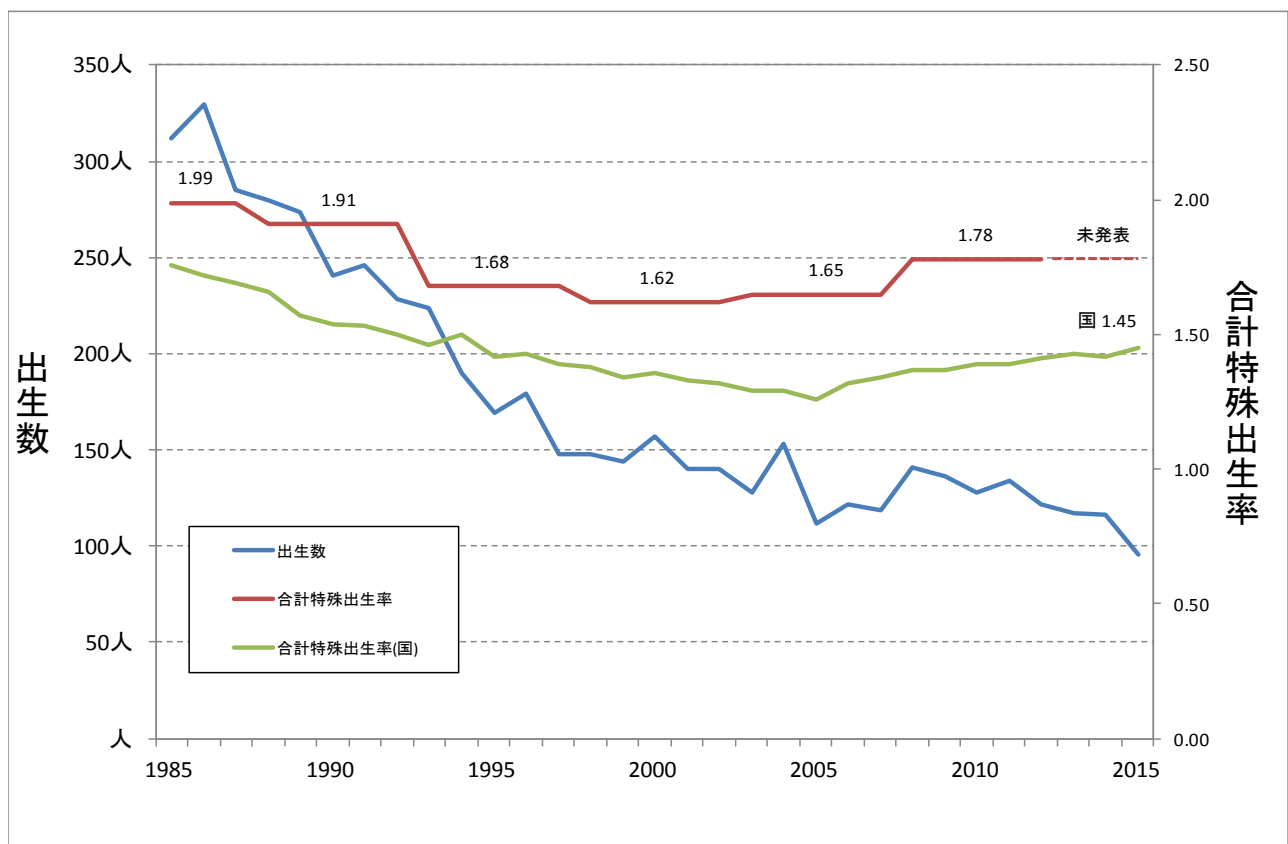
○芦北町の合計特殊出生率（※１）は低下し続けてきましたが、2008 年以降やや持ち直し、現在 1.78 となっており、全国平均は上回っています。

○出生数は、出生率の低下と若年層人口の転出が続いていることもあり、依然減少傾向にあります。

※１ 合計特殊出生率

15 歳～49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子どもの数に相当する。

【図表 4 合計特殊出生率の推移】



2 人口移動分析

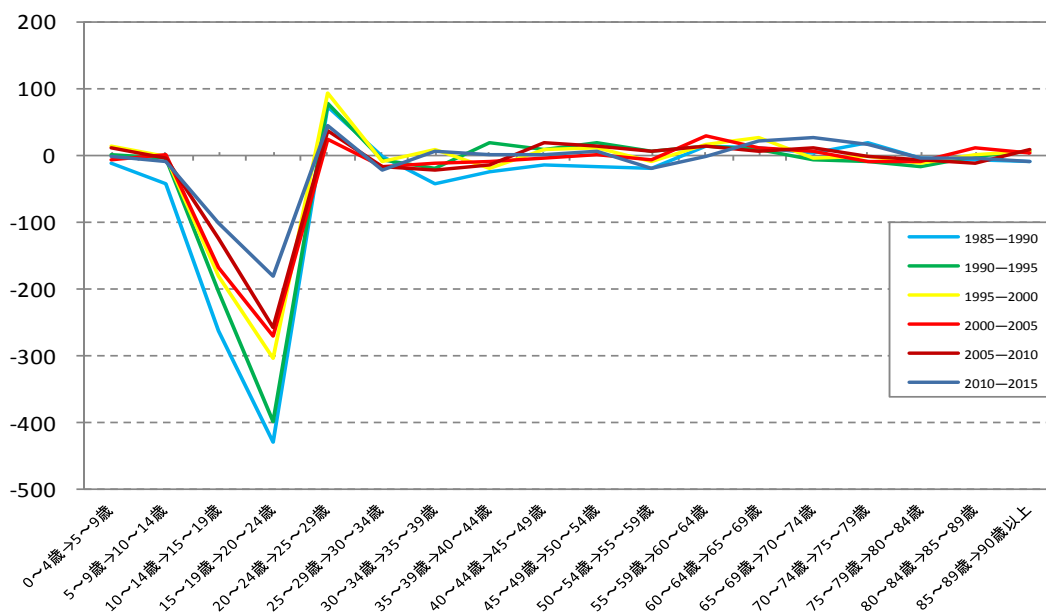
(1) 年齢階級別人口移動（1985 年→2015 年）

○1985（S60）年から 2015（H27）年の5ヶ年ごとの転出入状況をみると、男女とも 10 歳～14 歳から 15 歳～19 歳になるとき、及び 15 歳～19 歳から 20 歳～24 歳になるときに大幅な転出超過となっています。

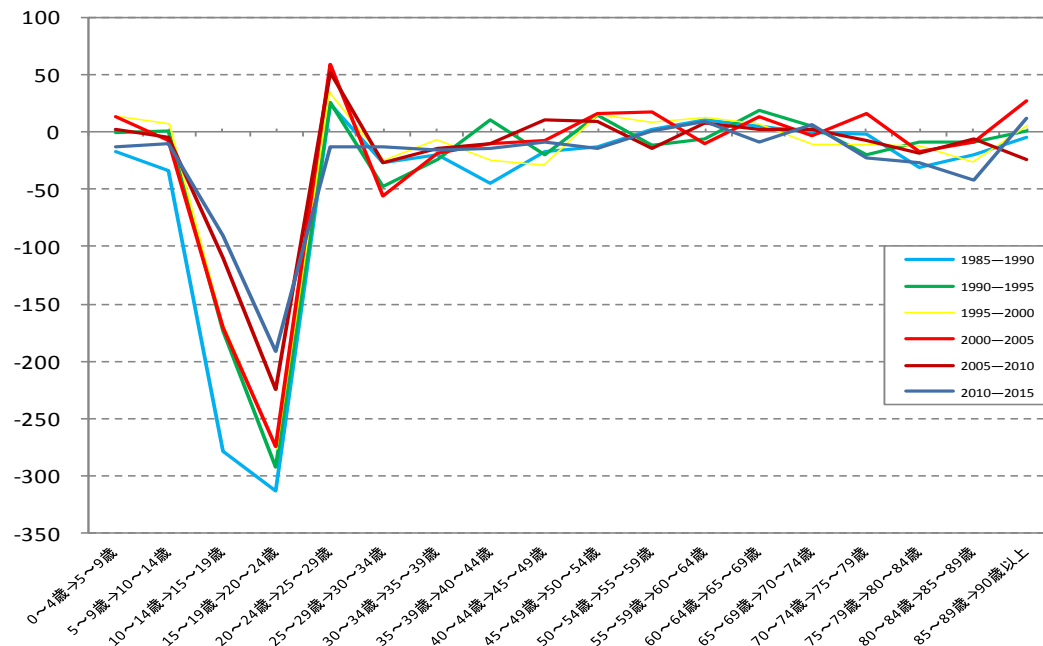
○一方、20 歳～24 歳から 25 歳～29 歳になるときに、若干の転入超過がありますが、それ以上の世代では、青壮年層はほぼ横ばいで、老年層では徐々に転出超過が続いています。

【図表 5 年齢階級別人口移動（1985 年→2015 年）】

純移動数(人) 男性



純移動数(人) 女性

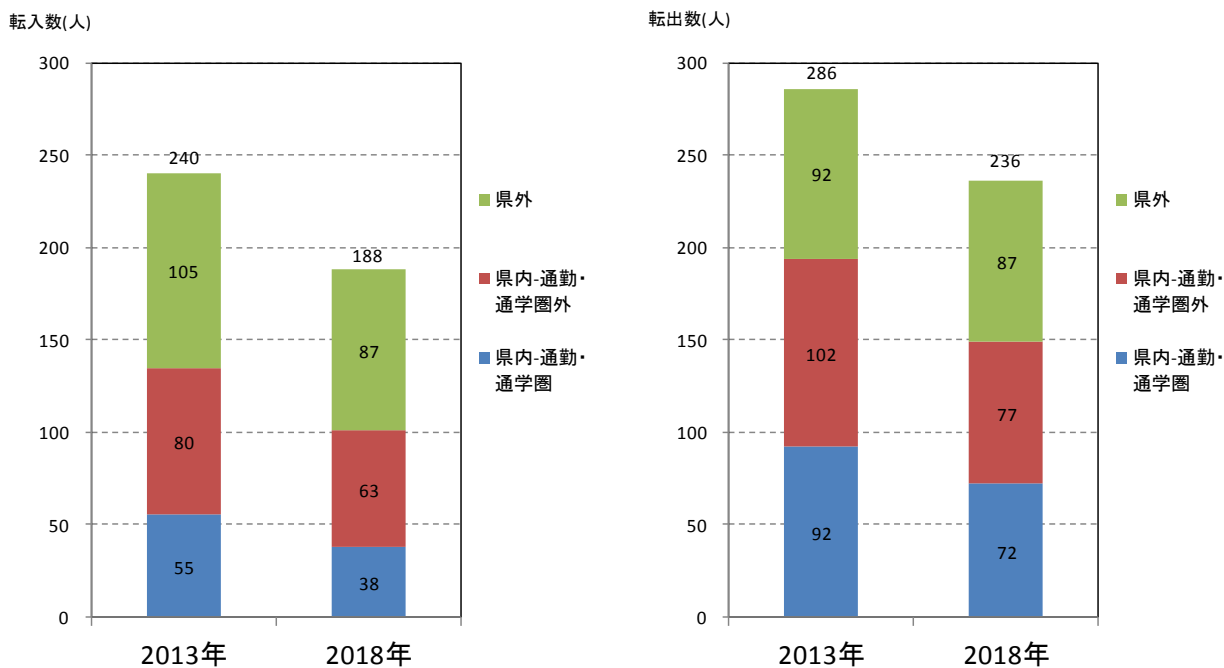


（２）人口移動の状況

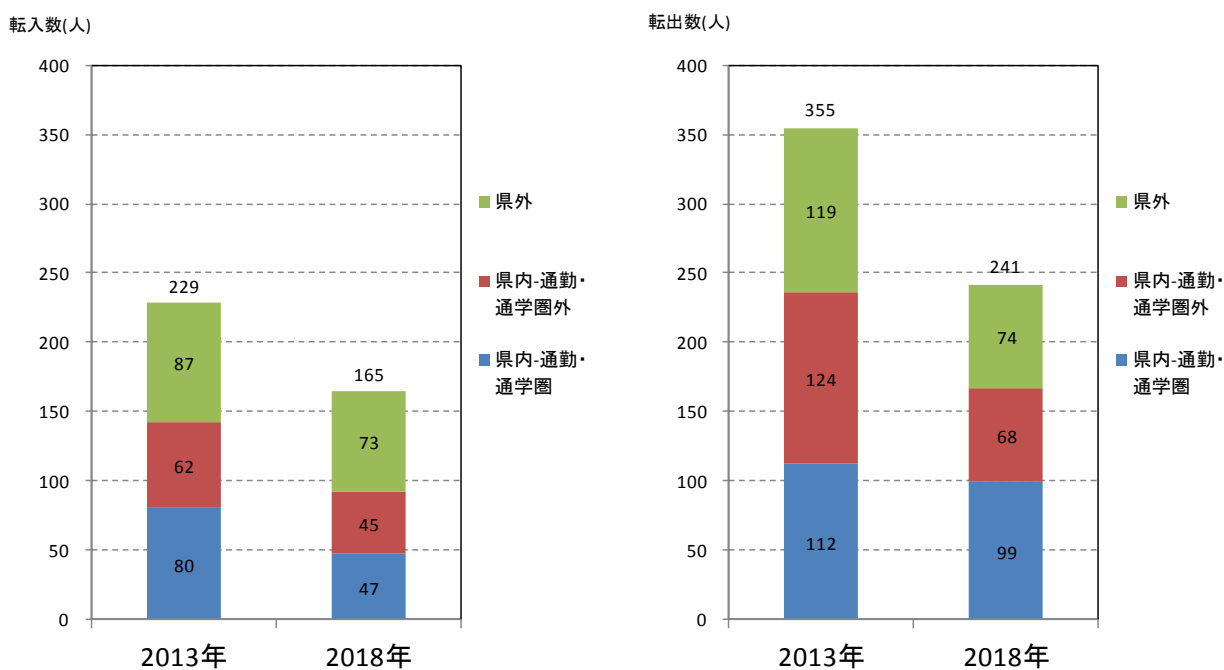
○2013（H25）年及び 2018（H30）年の転出入状況を比較すると、どちらも減少していることがわかります。

○男性に比べて、２ヶ年とも女性の転出超過が多い結果となっています。

【図表 6 人口移動の状況（男性）】



【図表 7 人口移動の状況（女性）】

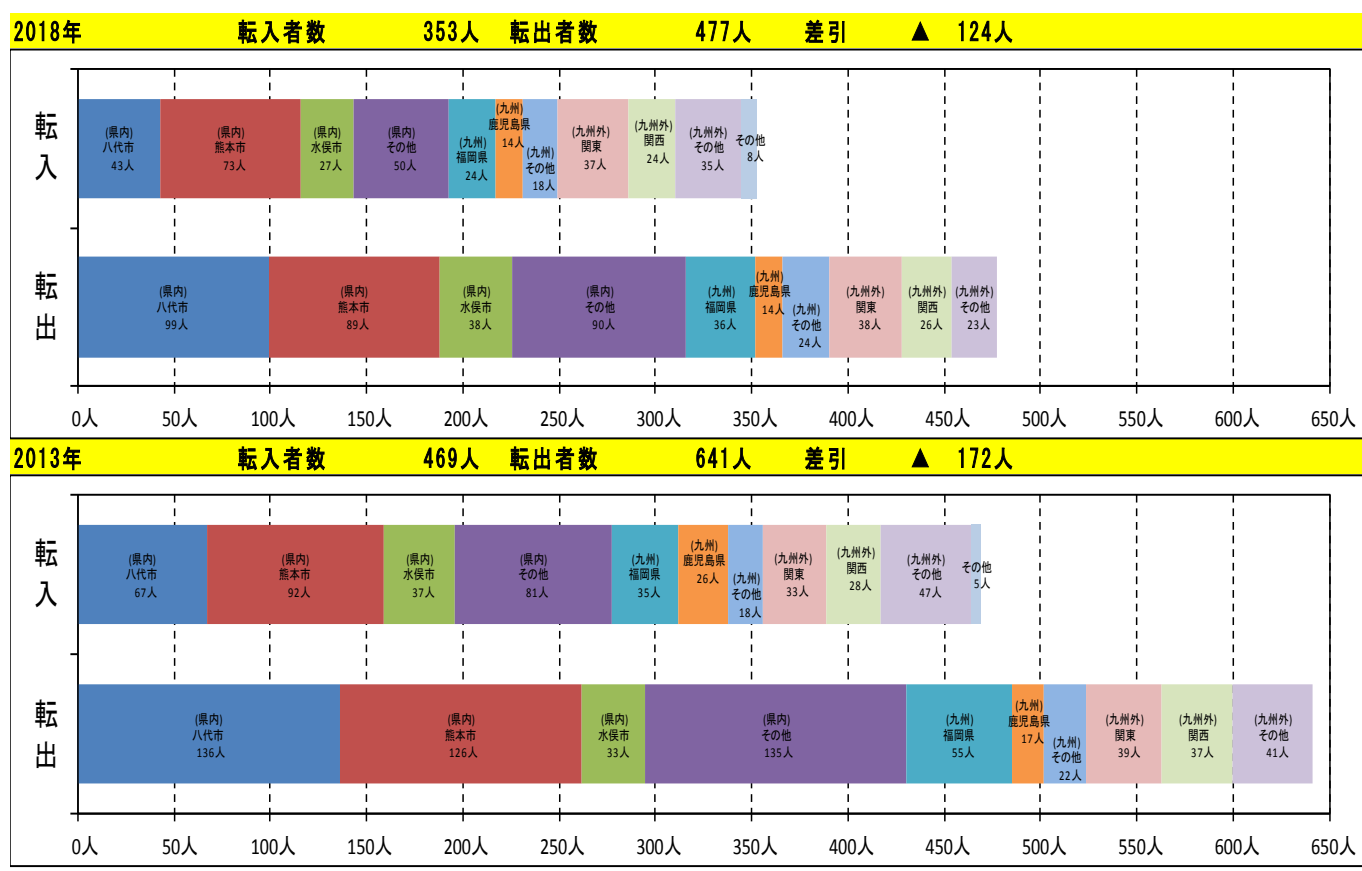


(3) 県内市町村への人口移動の状況

○2013（H25）年は172人の転出超過、また2018（H30）年は124人の転出超過となっています。

○2018（H30）年の県内市町村への転出超過は、八代市56人、熊本市16人、水俣市11人、その他40人となっています。

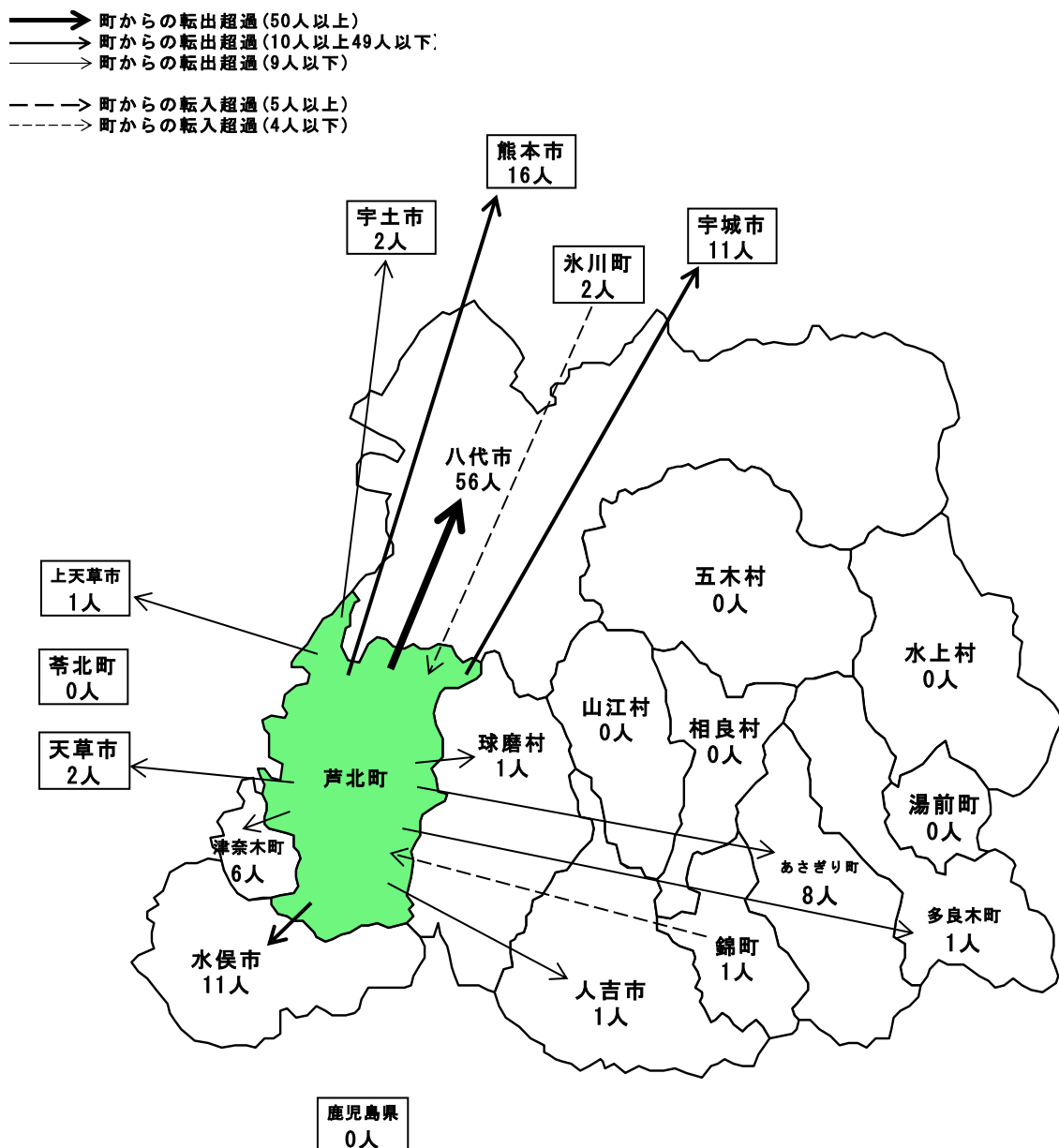
【図表8 県内市町村への人口移動の状況】



(4) 周辺市町村への人口移動の状況（2018 年）

○2018（H30）年は、八代市、熊本市、宇城市及び水俣市への転出超過が多くなっています。

【図表 9 周辺市町村への転出入状況】2018 年



(5) 通勤・通学の状況

○2015（H27）年の国勢調査の通勤・通学状況では、芦北町の就業者及び通学者の総数は8,411人です。このうち芦北町内への通勤・通学者は6,144人で、町外への通勤・通学者は2,267人となっています。

○芦北町から周辺市町村への通勤・通学者は、八代市へ977人、水俣市へ785人が多い状況です。一方、周辺市町村から芦北町内への通勤・通学者は、水俣市から417人、八代市から417人が多い状況です。

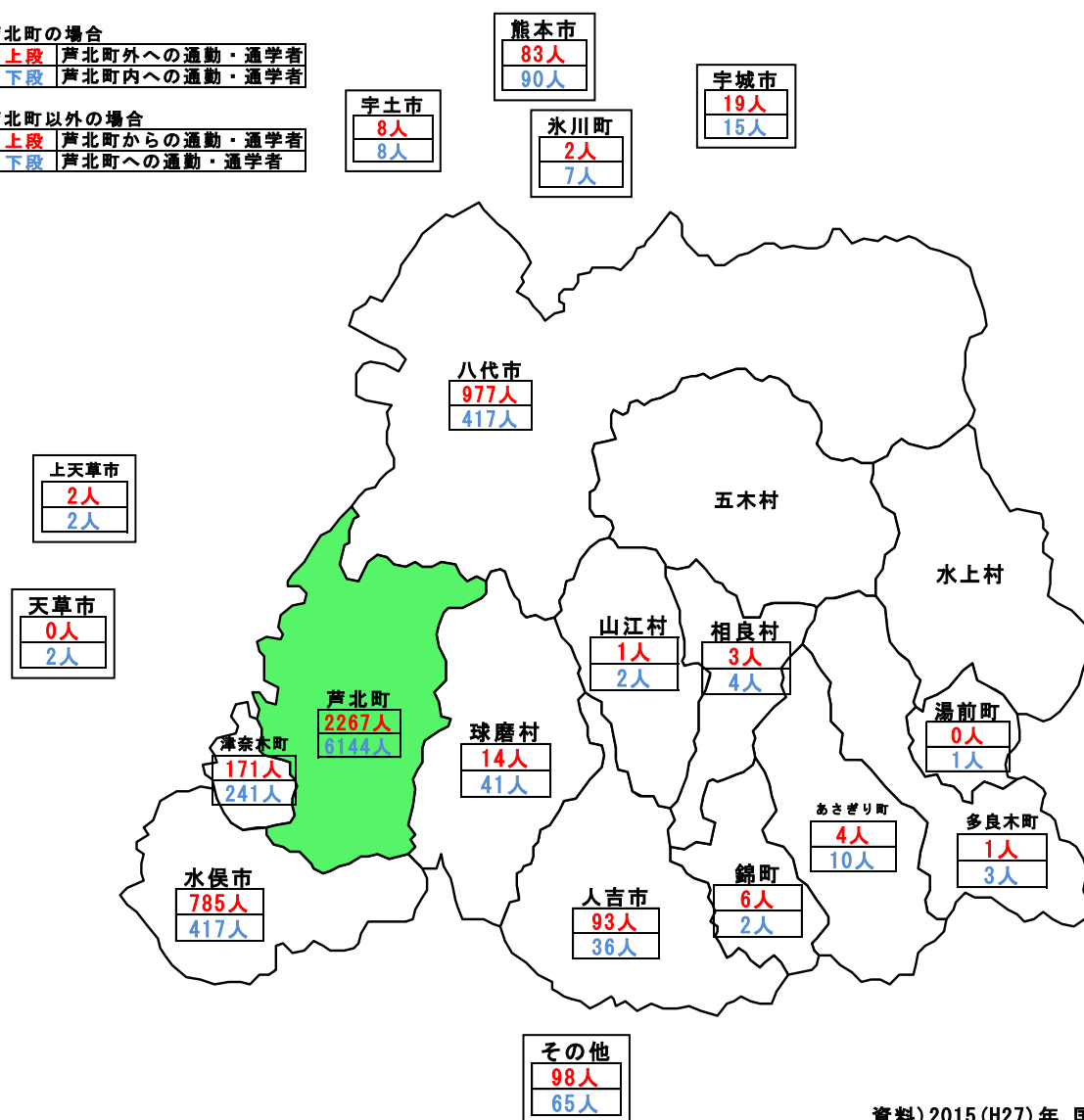
【図表 10 通勤・通学の状況】2015（H27）年

① 芦北町の場合

上段	芦北町外への通勤・通学者
下段	芦北町内への通勤・通学者

② 芦北町以外の場合

上段	芦北町からの通勤・通学者
下段	芦北町への通勤・通学者



資料) 2015 (H27) 年 国勢調査

3 雇用や就労等に関する分析

(1) 男女別産業人口の状況

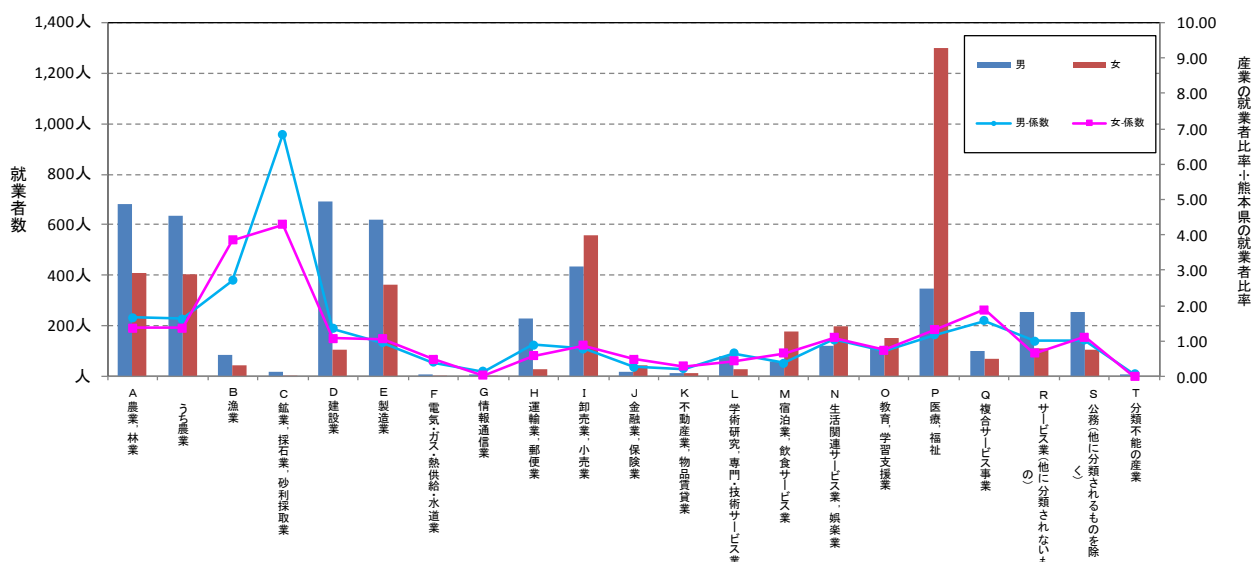
○2015（H27）年度の産業別就業人口では、男性では、建設業、製造業、農業、卸売・小売業が多くなっています。

○女性では、医療・福祉が突出して多く、次いで卸売・小売業、農業、製造業が多くなっています。

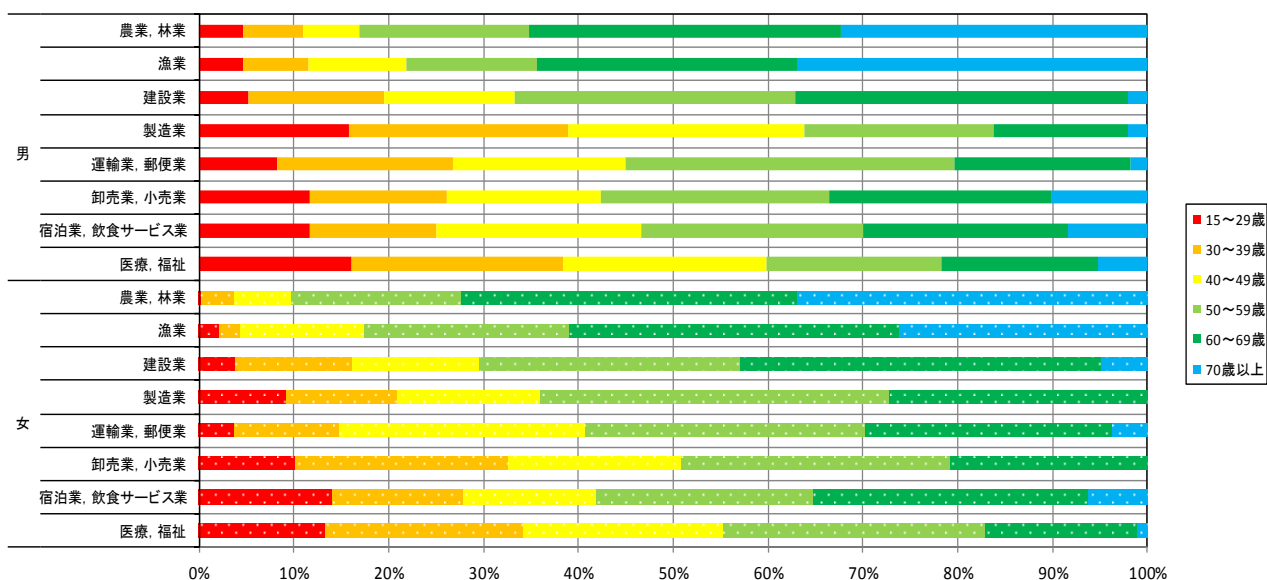
○産業別の就業者比率を熊本県と比較すると、男女とも漁業、複合サービス事業、農業が県平均より高くなっています。

○2015（H27）年度の産業人口について、就業者の年齢階級をみると、農林業及び漁業は、男女ともに就業者の約6割から7割が60歳以上となっています。

【図表 11 男女別産業人口の状況】2015（H27）年度



【図表 12 年齢階級別産業人口割合（主なもの）】2015（H27）年度



4 日常の買物動向

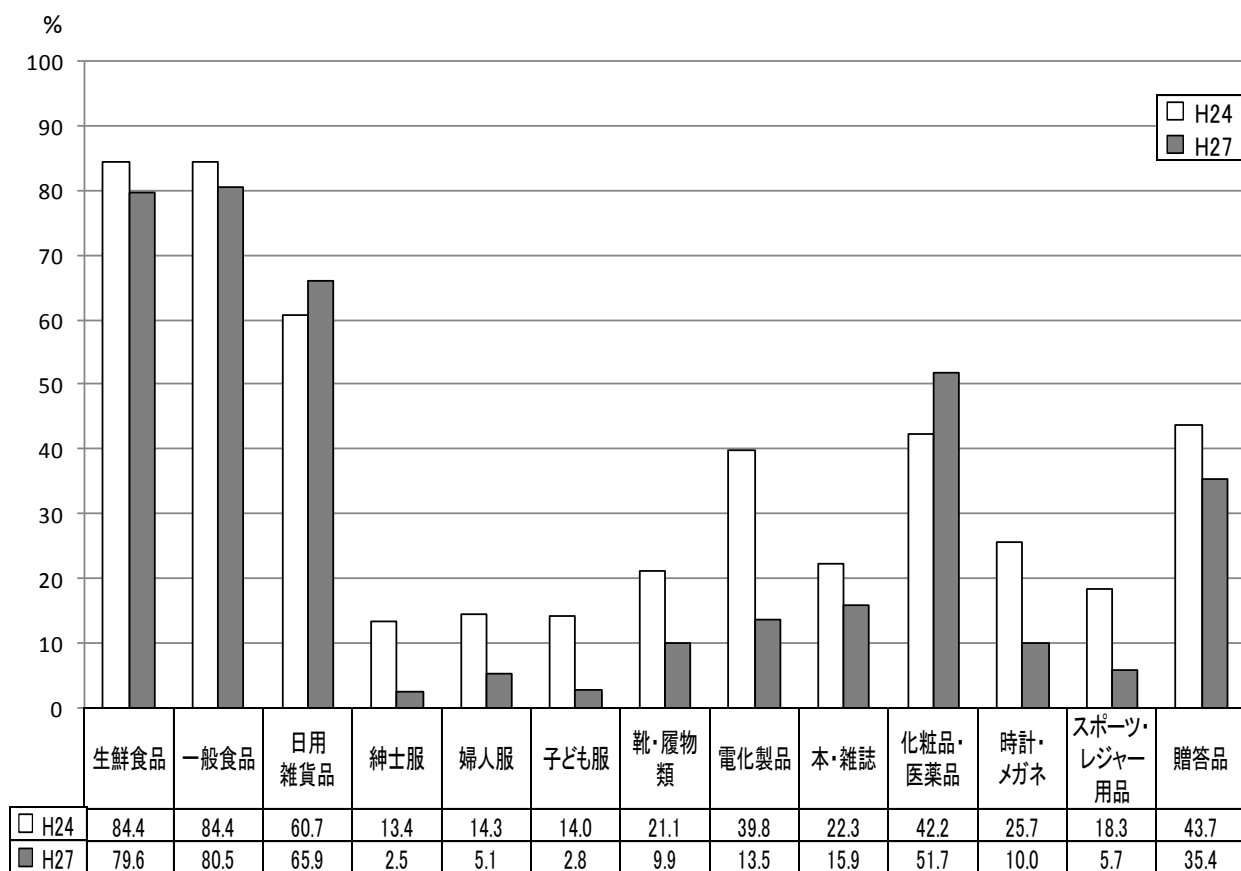
(1) 芦北町と周辺市町村の地元購買率

○芦北町では、食品の地元購買率が約 8 割で、周辺市町と同程度となっています。

○一方、衣料品（紳士服、婦人服、子ども服）や身回品（靴・履物類）の地元購買率は 1 割未満と低くなっています。

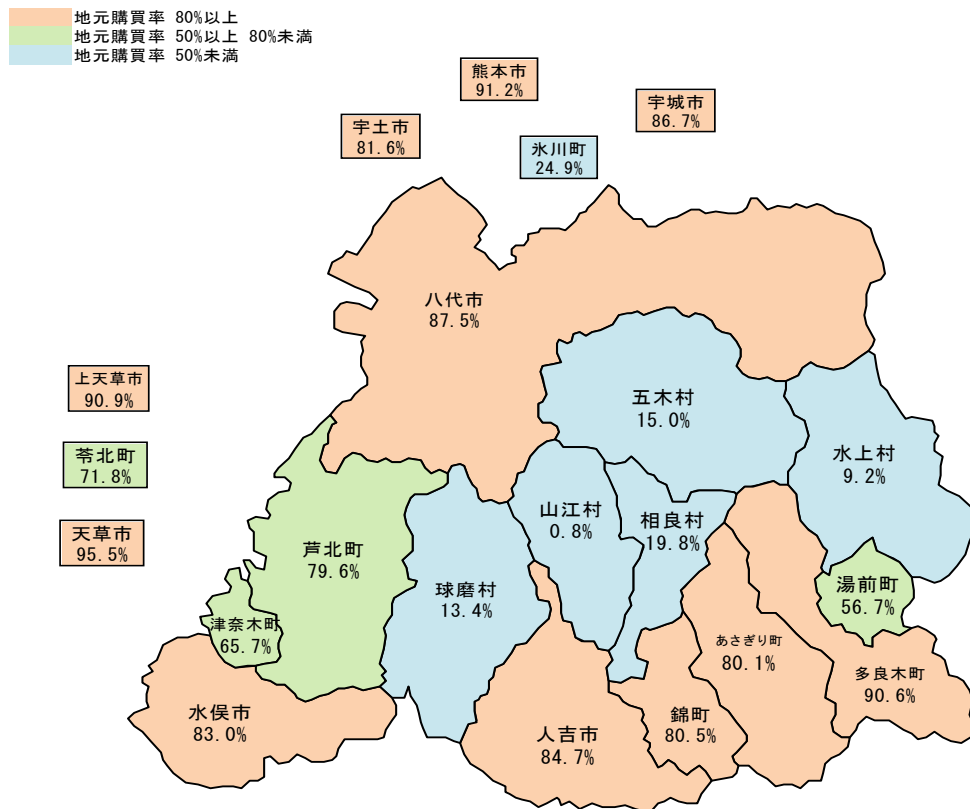
○靴・履物類の購買でみると、約 6 割以上が八代市及び熊本市で購入している状況です。

【図表 13 芦北町の商品別地元購買率】



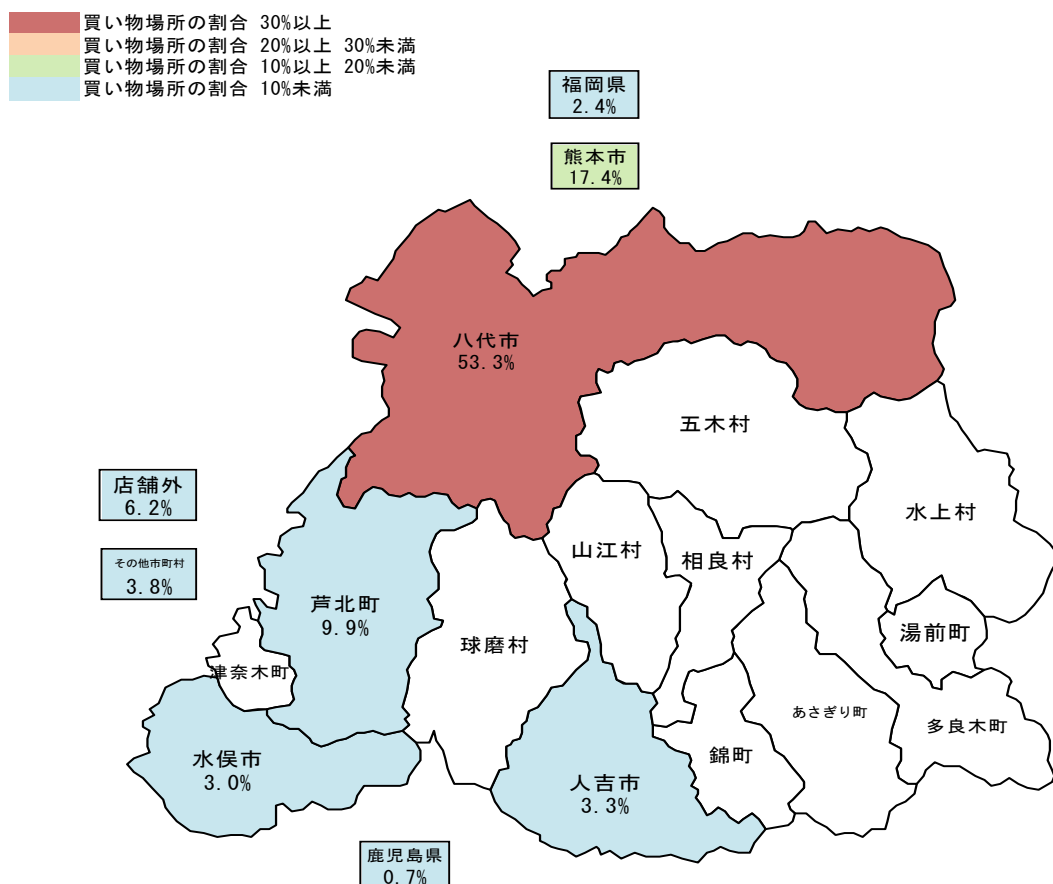
資料：平成27年度熊本県消費動向調査

【図表 14 食料品（生鮮食品）の地元購買率】平成 27 年度（2015 年度）



資料) 熊本県消費動向調査報告書

【図表 15 身回品（靴・履物類）の買い物場所】平成 27 年度（2015 年度）



資料) 熊本県消費動向調査報告書

II 将来の人口展望

1 目指すべき将来の方向

(1) 現状と課題の整理

- 芦北町では、戦後人口が急増し 1950（S25）年の 37,724 人をピークに、以降は現在まで人口減少が続いています。
- 自然増減については、出生数が減少する一方、死亡数は増加し続けており、1990（H2）年以降は死亡数が出生数を上回る自然減に転じている状況です。
- 合計特殊出生率は 1.78 で、全国平均及び県内平均を上回っており、国の長期ビジョンにおいて示された国民希望出生率（1.8）と同程度にあります。
- 社会増減については、1975（S50）年以降、転出数が転入数を上回る社会減となっています。近年の移動先は、八代市や熊本市への転出超過が多い状況となっています。
- 年齢階級別の移動状況からみると、高校・大学等への進学や就職によるものと推察される世代の転出超過が他の世代に比べて著しく高く、近年はやや緩やかになったものの、若い世代の転出超過の傾向は依然続いている状況です。
- いわゆる子育て世代及びその子ども世代の転出超過も社会減の要因の一つとなっています。特に出産適齢期にある若年女性の転出超過は人口減対策にとって重要な課題といえます。
- 将来人口推計について、社人研推計によると、町では 2015（H27）年に 17,611 人であった人口は、2060（R42）年には 5,374 人まで減少することが見込まれています。
- 以上のことから、芦北町では我が国全体の高齢化・少子化による人口減少の進行に加えて、若者及び子育て世代の人口流出が続き、更なる人口減少を招くといった状況下にあると言えます。

(2) 目指すべき将来の方向

今後の人口減少への対応は、以下の方向性が考えられます。

① 若い世代の雇用を創出する

- 若い世代の雇用機会を増やし、地元企業等への就職を促進させ、人口減少の大きな要因である若年層の人口流出を抑制していく。
- 年間約 120 人の転出超過の現状を踏まえて、特に 20 代前半の流出人口を抑制する具体的な数値を目標に立て、施策を展開する。

② 子育て世代が安心して暮らせる環境をつくる

- 子育て世代が安心して子どもを産み、育て、生活できる環境づくりを進め、これらの世代とその子ども世代の人口流出を抑制する。
- 「結婚、妊娠、出産、子育て」の期間に係る医療、保育、教育、就労に関する施策をより充実させ、安心して子どもを産み、育て、働ける環境づくりを促進する。
- 2030（R12）年を目標に、子育て世代が安心して暮らせる環境づくりを進め、10 年後以降には、子育て世代及びその子どもの世代の転出超過の傾向が均衡していくことを目標に施策を展開する。

③ 移住・定住を促進する

- 自然豊かな町の地域特性を活かして、地域の魅力を高める施策の展開を図り、U ターン者や移住者等の転入人口を増加していく。
- 過疎化、高齢化が進んだ地域では、人口流出によって空き家が増え、集落・コミュニティ活動の維持が困難なところも少なくないため、空き家や公共施設の新たな活用を図り、移住・定住を促進する。

2 将来の人口展望

国の長期ビジョン及び町の人口に関する分析等を踏まえ、町の将来人口を展望します。

【長期的展望】

国の長期ビジョンが示す目標人口を踏まえ、2040（R22）年に10,500人、2060年（R42）年に6,200人の人口規模の維持と人口構造の若返りを目指す。

長期的展望に示す人口規模を維持するため、次の目標を掲げます。

（１）雇用の場の確保による青年層の人口流出抑制

高校・大学卒業後の年代（10歳代後半～20歳代前半）の就労の希望を実現できる雇用環境を創出し、就職に伴う転出人口の抑制とＵターン就職の促進を図ります。具体的には、2020（R2）年から2045（R27）年まで毎年20人（男女10人ずつ）の人口流出抑制を目指すものとします。

（２）子育て世代人口の転出抑制と転入促進

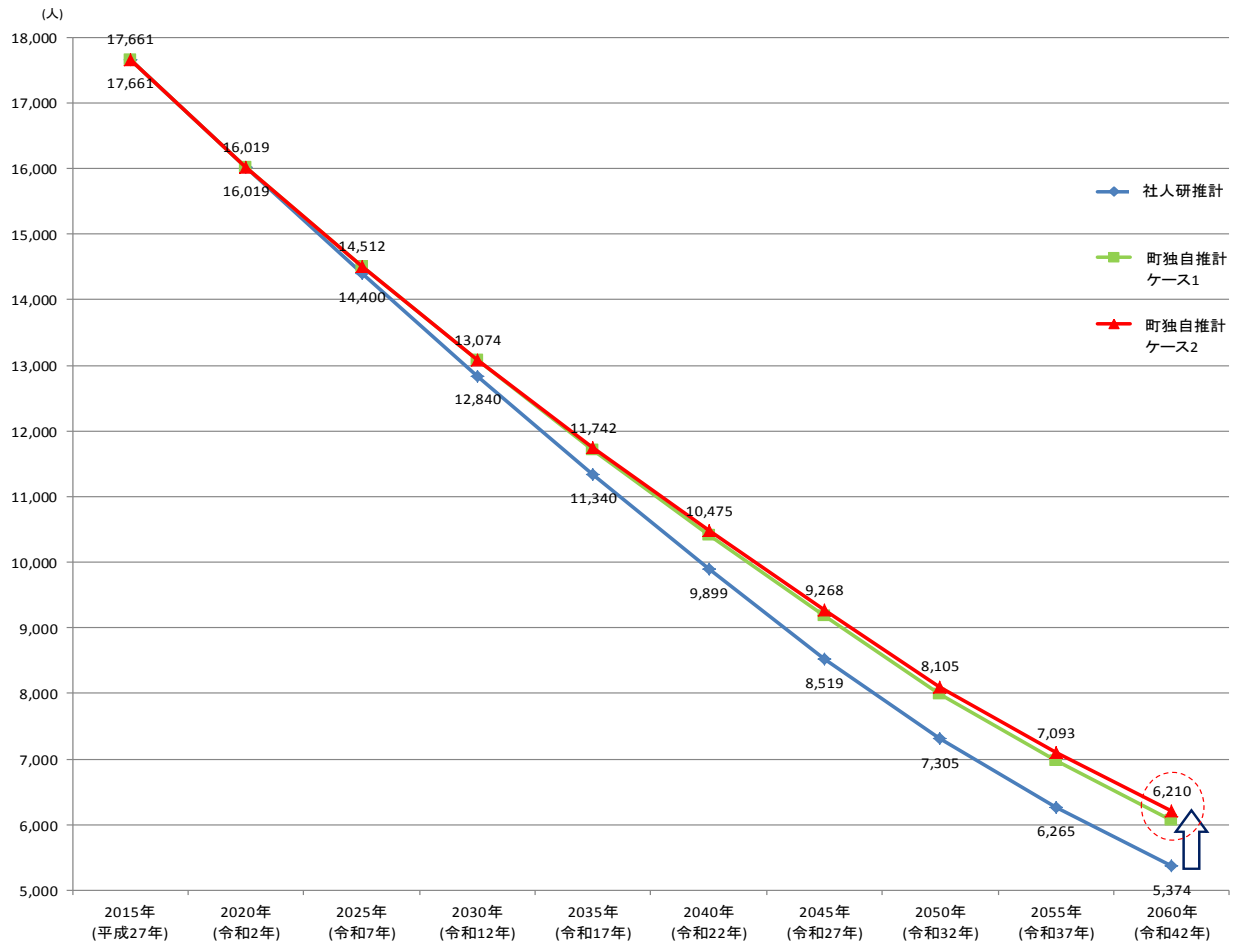
20歳代後半～40歳代前半のいわゆる子育て世代が、安心して妊娠・出産・子育てをすることができる社会環境を実現することで、転出超過の状況を改善し、10年後の2030（R12）年には転出数と転入数が同数（移動率0）となることを目指すものとします。

また、子育て世代の移動率の変化に伴い、その子ども世代（0歳～10歳代前半）についても2030（R12）年に移動率0を目指します。

（３）移住・定住の促進

町の地域特性と人口流出の現状等を踏まえ、今後は、SNS等による町の魅力発信や、移住体験プログラムや移住体験住宅を活用した暮らし体験などの具体的な施策を展開し、移住・定住の促進を図ることとします。

【芦北町の人口の推移と長期的な見通し】



		2015年 (平成27年)	2020年 (令和2年)	2025年 (令和7年)	2030年 (令和12年)	2035年 (令和17年)	2040年 (令和22年)	2045年 (令和27年)	2050年 (令和32年)	2055年 (令和37年)	2060年 (令和42年)
社人研推計	総数	17,661	16,019	14,400	12,840	11,340	9,899	8,519	7,305	6,265	5,374
	年少人口 (0～14歳)	1,886	1,654	1,430	1,215	1,028	859	710	597	509	436
		10.7%	10.3%	9.9%	9.5%	9.1%	8.7%	8.3%	8.2%	8.1%	8.1%
	生産年齢人口 (15～64歳)	8,717	7,213	6,081	5,179	4,480	3,874	3,290	2,721	2,296	1,938
		49.3%	45.0%	42.2%	40.3%	39.5%	39.1%	38.6%	37.2%	36.7%	36.1%
	老年人口 (65歳以上)	7,058	7,153	6,889	6,446	5,831	5,166	4,520	3,988	3,460	3,000
		40.0%	44.7%	47.9%	50.2%	51.4%	52.2%	53.1%	54.6%	55.2%	55.8%
町独自推計 ケース1	総数	17,661	16,019	14,512	13,074	11,707	10,410	9,180	7,997	6,969	6,075
	年少人口 (0～14歳)	1,886	1,654	1,442	1,253	1,105	974	865	768	672	570
		10.7%	10.3%	9.9%	9.6%	9.4%	9.4%	9.4%	9.6%	9.6%	9.4%
	生産年齢人口 (15～64歳)	8,717	7,213	6,181	5,375	4,771	4,270	3,795	3,241	2,837	2,505
		49.3%	45.0%	42.6%	41.1%	40.8%	41.0%	41.4%	40.5%	40.7%	41.2%
	老年人口 (65歳以上)	7,058	7,153	6,889	6,446	5,831	5,166	4,520	3,988	3,460	3,000
		40.0%	44.7%	47.5%	49.3%	49.8%	49.6%	49.2%	49.9%	49.7%	49.4%
町独自推計 ケース2	総数	17,661	16,019	14,512	13,074	11,742	10,475	9,268	8,105	7,093	6,210
	年少人口 (0～14歳)	1,886	1,654	1,442	1,253	1,122	1,001	900	810	715	612
		10.7%	10.3%	9.9%	9.6%	9.5%	9.6%	9.7%	10.0%	10.1%	9.9%
	生産年齢人口 (15～64歳)	8,717	7,213	6,181	5,375	4,789	4,308	3,848	3,308	2,917	2,596
		49.3%	45.0%	42.6%	41.1%	40.8%	41.1%	41.5%	40.8%	41.1%	41.8%
	老年人口 (65歳以上)	7,058	7,153	6,889	6,446	5,831	5,166	4,520	3,988	3,460	3,001
		40.0%	44.7%	47.5%	49.3%	49.7%	49.3%	48.8%	49.2%	48.8%	48.3%

注) 移動率に関する仮定

- ① 社人研推計では、2010（H22）年～2015（H27）年の国勢調査（実績）等に基づいて算出された移動率が、2040（R22）年以降も継続すると仮定している。
- ② 町独自推計（パターン 1 及び 2）では、社人研推計に準拠している。

【町独自推計について】

ケース 1 2020 年から 2045 年まで、20 代前半の人口流出が毎年 20 人(男女 10 人ずつ) 抑制された場合

ケース 2 ケース 1 の実現に加えて、2030 年以降の 20 代後半～40 代前半の人口及び 0～14 歳の人口の移動率を 0 とした場合

【高齢化率の推移について】

社人研の推計によると、町の高齢化率（65 歳以上人口比率）は、2060（R42）年の 55.8%まで、上昇を続けると見通されていますが、町の施策による効果が着実に反映され、青年層の人口流出抑制と子育て世代の純移動率が改善されれば、2035（R17）年の 49.7%をピークに、2060（R42）年には 48.3%に低減されると見込まれます。

【芦北町の高齢化率の推移と長期的な見通し】

